

衛生問答欄

同仁會醫局

が其翌日は痛みを感じず左側の罪丸がはれ歩行困難となり一週間カマに就きアーマシアに行けばオルキテミカ云ふ病名で其注射を八本しなればヘルは滅つたが元來の二倍大位より減らず又近頃なんざなくランヽする様な氣持が致し仕事には何の支障も御座ひませぬが何卒然るべき療法を御教示下さい。(K.O.生)

答。達つたら御下さる。これは以前淋病をやられた事がありそれが手傳つて睾丸炎となつたんで單に打つただけの物とは思われません。薬店で注射したのは多分淋毒ワクチンだつたらうと思ひますが此療法は局部の安静が第一要件ですから三週間仕事を休み局部に Ichtitol (イヒチオール) を一日一回塗り次の處方の温湿布を行ふ。

Acetato de chumbo 3 gr.
Alumem 6 gr.
Agua distillada 1 litro

これは1時間毎に交換する。
それから前淋毒ワクチンを二回宛間隔を置いて十二本位注射を続けるこれで大概全治する。

衛生問題欄 同仁會醫局

問。小生は昨年十二月末渡伯せるものなるが渡伯以来今日に及ぶ迄遠部鳴り一日乃至三回の便通は水糞粉程度の便多く便便に小さきあわ様の物多くあり腹痛便の終りにじぶり等回もなくそれ故季候或は水の關係によりて斯様になると思ひ居りしも一ヶ月以上上の日月を過ぎ共變りたる様子なく伯國醫師の診察を受けしも効なく過日來獨逸製賣藥を試用し居るも余り効力を見ず困り居り候。

されど普通の勞働には差支なく只身體弱み益々悪くなる一方なれば一日も早く十分の養生致し度く處方箋或は賣藥名御教授下され度願ひ上げ候(川上)

答。あなたの病症は單に腸の病だけでなく外に慢性全身病がかくれてゐるものとしか考へられぬ。其慢性症のなんであるかを確める事は直接診た上でなければ決して出來ませぬ。買藥などで空しく無駄な時日を経過する事は宜敷くない(高岡)

問。四月頃馬上で一寸の機で馬が倒れ際罩丸を打つたさ見へ(其時感付かず)としてばらひの恐心乗じてした

驛に一番近い佐々木政信君の家を訪問した、百三十城の耕地を全部五十コントスで借りて、珊瑚が少からず、米作地十五地域は既に開墾し更に十地域新わたり位に拓くべく株根掘りをやつてゐる。五尺八寸位の偉丈夫佐々木君は未だ若い、多くの使用者を叱咤するには良は看板だ、米作地を使用してゐる、種々の経験談

旅日記

赫々と照り出した雨上がりの旅路を次の目的地へと辿つた、汗も冷えて冷々とする夕暮アシーマ近いの池岡さんの所に着いた、マンジオカ耕地から移つて来て間もない所だ、澤山の人々が出入りするが皆此處の家人の人達だと、息子三夫婦（娘三人、孫幾人）人と云ふ大勢だ、大體日本から来る時から九人の家族を引き連れて来られたので、珊瑚園時代も随分成績がよかつたそうだ、池岡さんは實踐躬行主義者で遣り方が全く地味だ、種々経験談を筆記しながら感心した、先年一時歸朝して某大新聞に出された成功談はオクビにも出なかつた。

馬を飛ばして水野君の所に歸つた。話してゐる間に此處の人達全員が集つて來て呉れたので用件を済ましたが、種々話に花が咲いたので此處に一泊した。

七月三十一日、雨。押しつけるやうな鉛色の空合を氣にしつゝ、水野君の所を辭し、直ぐ近くに住む杉内、島村の二君を訪問した。頭到りに出した細雨に濡れながら子供に案内されてビロボリス驛に出た、午前十時幾分、ベイロボリス發一應コンキスターで歸へり、岡本君の店に立寄つて種々此の地方巡視の整理をつけて谷君に逢つてリオグランデの景を撮つた写真をもらつて午後四時の汽車に乗るべく出かけたから、もう汽車が動き出してゐる。追ひ着きそうもなし、いつも半時間位遅れて來る位珍らしくない此處の汽車がこ憤慨しても落するより外はなかつた、と云つて明日の午後まで安閑と待つて譯にも行かず、遂に意を決して

い時に準備を怠る者で、暑さの
中に寒さの有る事を忘れた人々
ではあるまいか。

尙ほ之を證せんが爲め少しく私
の實驗を申述べますなら、私が
昨年一月に第一にアラ、クフヲ
線、第二にノロエステ線を視察
した事は知る人ぞ知るであるが
其際に私の耳にせし事は「昨年迄
は好况であったが今年の不況は
お詫の外はありません」との打
明け話だつた、茲に於て私は悟
つた、不況が見舞つた場合如何
に泣事を云つたからとて始まら
ない、好况の場合に不況に對する
準備があつてこそ難關を突破
し得るのだ、歸つて此準備に早
速取掛らねばならぬ、として私
は歸植後全力を擧げて不況に對
する準備をした、爲めに私は比
較的打撃を受くる事少なくして
済んだのだから、好况の場合不
況を忘れるべく云ふ事は如何に大
切なるかを此際爰に特記して一
般の注意を促さんとする。

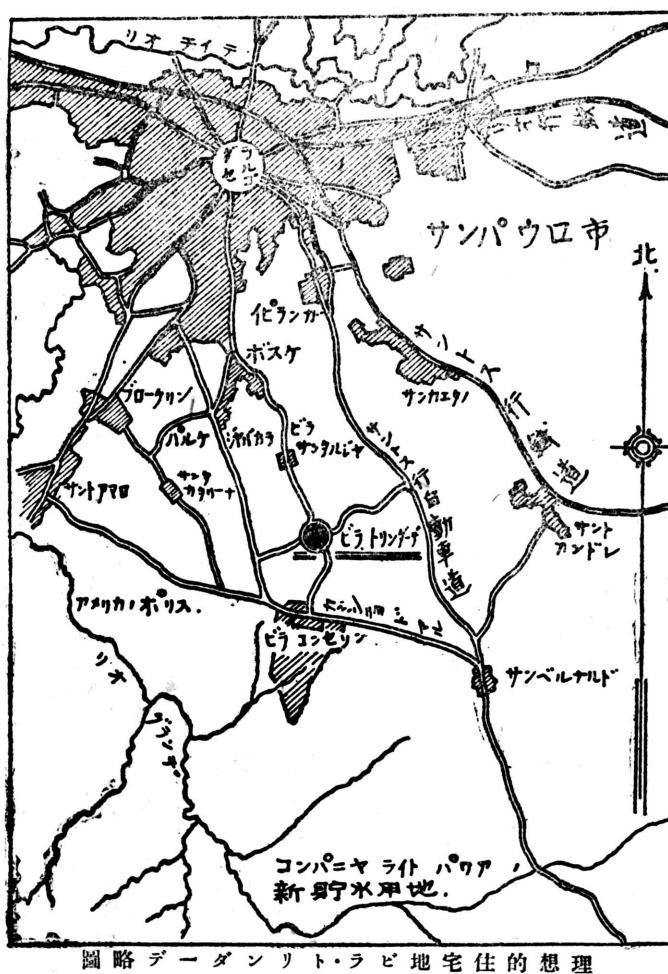
出來す。泣事を云ふ様な者が一萬二千哩外出で成功を望むなどは謂ゆる木に縁つて魚を求めるの類ひで、到底望んで得難い事である。殊に近頃は母國から低賃借入にて血眼となり運動してゐる連中もあるが、斯の如き金を當てにして渡した者は一人も有るまいと思ひしに、之を裏切られたは意外である。私などは自惚ながら然様な金はノシを附けて下さるご真平ら御免。此の不運に陥り煩惱して救助を求むる様況は吾々に取り喜んで受くべき試炼の材料であると思ふ者であつて、二年や三年の不況にて窮屈なる者は其罪自分に有るのであるから、此際苦しむ大苦しむのは本人の爲め良い事である、若し此試験的不況に及第出来ぬ様な者なら不良種の豚を養ふと同じく、如何に援助しても其効無きものである、不況に泣事を云ふ人々の中の七、八は景氣の良

る限に入購地宅の二デーダンリト・ラビ二は資投な利有實確
合請とくるす貴騰に倍五倍三に内い近ばけ置てつ買今

無限に擴大しつゝある

サンパウロ市郊外住宅地

今茲に廉價賣出しを爲す「ピラ・トリンダード」は、サンバウロ市富豪家の争つて購入する
ピラ・マリアンナ區に接續し、市内電車四十二番延長確定線に沿ふ理想的住宅地で、位置
は高臺にして見晴し良く、且つ健康に好適な別荘地帶です。
面積は、總體で十二萬一千米突平方で、壹ロット幅拾米突奥行五拾米突に分割済み、又地内街
路は四通八達、イビランガの博物館を遠目に見卸す景色良好の場所であります。
地價は、目下壹米突貰ミル五百レース乃至四ミルレースの廉價ですが、周圍
の發達と交通の開けるのとで、日に月に地價が昂騰しつゝありますから、今は買手に取つて一番
好い買時です。



支拂は エントラーダ無しの四年の長期間、無利息月賦拂ひで、且つ纏めて前金拂
既購入 ひに對しては割引の方法も備つてゐます。
員をして持參御一覽に供します。

◇視察御希望の御方は當事務所へ御申込下さるば時日を定めて懇切に御案内申します。總ての御照
會は左記宛へ願ひます。
但し遠隔の地より郵送御希望の場合は、青寫真一枚に付三ミルの郵券を御送付願ひます。

伯刺西爾時報社內

VILLA INDIA

Rua das Lages, 10
Caixa Postal, 11
S. Paulo

指定代理人 上原直義
Praca José Bonifacio, 223 Santos

Praça José Bonifácio, 22 Santos

作創 ラカロムレーレ譯 平原の十字星 (3)

賴されたバトロンは濱田に松田の看護する事をすゝめて自身が重病の前貸したにも拘らず猶も若干の金を與へた、濱田は涙を流して行つた彼の厚意を感謝した。醫師は一
「あれ見給へ、あすへ行く氣の毒な男を、可哀相にもう四人の醫者に見放されたんだ。」
「一體何病氣なんだい。」
「金がなくて診察料が拂へないんだ。」
「あ、安心した……」濱田は重荷をおろした様な心持ちになつた、氣がゆるんでか彼は我知らず睡りに落ちるのであつた。
牧草の葉すれの音が妙に聞えるのみ。
* * *
精次も毎日一度は必ず訪問してくれた、或る時は松川の爲めに若き鶴や玉子などを持つて来てくれたりした、其他兒童の父兄等が時々見舞ひに来るのにはうに此の氷の國を旅したか、
の話はあまり讀者諸君に興味もあるまいので、極ほじよつて話を事にしやう。エスキモーは確に寒さにつける前に、先づ縫はひつくり返して、底の滑走部に口に雪を含んでそれを解けた水を吹きかける。それは間もなく水結してしまふ。かうして滑走部は、
水の層で覆はれて摩擦を著しく減少し、擦あがだかぬ硝子玉が大理石盤上をころんと転ぶ。人か子供乗らない

深く感謝した、兒童等も又若王の命を一經めにして病床の松川は慰める可く持つて來るのであつた。

日を重ねるにつれて松川の病も少しく快方に進んだ、濱田は毎日未明に起きて炊事を済ましては珈琲園に働きに行つた。

一日濱田が珈琲園から歸った時松川はぐつりと寝こんでゐた。彼の枕元には聖書が開いた儘伏してあつた。

濱田が炊事をする音に目を覺えた彼は如何にも快活さうに叫びけんだ「濱田君お歸り、君の歸つたのを少しも知らずに睡つて居た」

「やあ今日はどんな風、いくらくノーバ・イ・ベーリヤ

世界最大の木造建築はニューサーランドはウェーラントンの議院です

ノーバ・イ・ベーリヤ

最大木造建家屋

か氣分がいい」

「有難ふ何時も比較すると大分いい様だがね、この分ならもう一週間も経つたら起きられるかも知れないと思う」

「それはいいね、して食慾の方はどんな風」

「今日君が造つて行つてくれた

家たの話

好いさ四十五キロ乃
キロの重量を積んだ
は一日平均七十七キロ
する事が出来る、けれども
は特別最大能力で
四十五キロ空塗を走
が一番適してゐる、
犬の牽引能力を節約
がある。一般に
像するとは反対に老
の外は、人は檻には
こにしても、雪

らじて犬や馬の通常
を重ねるにつれて松川の病も少しきつた時に進んだ、濱田は毎日未明に起きて炊事を済ましては珈琲園に働きに行つた。

一日濱田が珈琲園から歸った時松川はぐつりと寝こんでゐた。彼の枕元には聖書が開いた儘伏してあつた。

濱田が炊事をする音に目を覺えた彼は如何にも快活さうに叫びけんだ「濱田君お歸り、君の歸つたのを少しも知らずに睡つて居た」

「やあ今日はどんな風、いくらくノーバ・イ・ベーリヤ

世界最大の木造建築はニューサーランドはウェーラントンの議院です

ノーバ・イ・ベーリヤ

最大木造建家屋

か氣分がいい」

「有難ふ何時も比較すると大分いい様だがね、この分ならもう一週間も経つたら起きられるかも知れないと思う」

「それはいいね、して食慾の方はどんな風」

「今日君が造つて行つてくれた

家たの話

好いさ四十五キロ乃
キロの重量を積んだ
は一日平均七十七キロ
する事が出来る、けれども
は特別最大能力で
四十五キロ空塗を走
が一番適してゐる、
犬の牽引能力を節約
がある。一般に
像するとは反対に老
の外は、人は檻には
こにしても、雪

十のを大方喰へてしまつた、ほんとうにうまかつたよ。彼は大空になつた皿などを指さした。

This horizontal strip contains several Japanese advertisements. From left to right: 1) A diamond-shaped logo with a large 'K' inside, followed by the text '各地食糧店でお' (Available at various food stores). 2) An advertisement for '神印油醤' (Kami Inoyaku), featuring a circular seal with the character '神' (Kami) inside. 3) A large vertical text '味ひ' (Mihi) next to a small illustration of a person's head. 4) An advertisement for '機タンラブ' (Kitanrabu) featuring a drawing of a hand holding a long object. 5) An advertisement for 'Alfaiataria YABE' located in São Paulo, with text in Portuguese and Japanese. 6) An advertisement for 'CONFEITARIA Japoneza Bossako' located in São Paulo, with text in Portuguese and Japanese.

所次取符切定指社會船商阪大

小上東未旭大聖主

パウル
支店

パブチスタ街
1-13

Rua Con. Furtado, 12 S. PAULO Caixa Postal, 1771

「生體もないその状で、殿のお供思ひも帝らぬ、斯して酔を醒させられう」と勘平は着衣を脱がせ、赤裸にして立出たが、此の時に匠頭は馬に打乗り、早駆出さうとするのであつた。勘平さつと立案を極め、剝取つた仲間の衿締を、己が身に着用して、一散に跡を追ふた。

火事装束間に合はず、袴の股立高く取り、足袋の儘從ふ土駄達ふ者どもは、お互に問ひ答へつ、こんな事を言合つて居る。

『まだ増上寺には延焼ませぬか』

『いやもう延焼たに違はない』

『何でもあの火の模様では、大内匠頭は絶対絶命、若し焼失の後驅付けければ、役目の落成までの間で、馬の呼吸の續く限り鞭をくれて急がした』

勘平はまた雜沓の中に、主人を見失ふては一大事と左手に提灯を持ち、右手に馬の尻尾を掴んで、半ば引摺れつつ走る。

『誰ぢや、跡につく者は、馬が遅い、放せ／＼』

『勘平お馬の口取りを相勤めます、火事場近く渡らせられますが御座りませいでは、如何に急がせられましても、山内への乗込みは相叶はぬと存じます』

『叶はぬ事があらうか、群集を蹶散らしても、乗入まねば相手をあらぬわい、放せと申すに』と舉げて罵つたが、勘平はいつかな放さぬ、内匠頭は怒りに堪えず、二つ三つ鞭つた、勘平が顔は忽ちに腫あがり、殆ど相形

も變り果たが、更に一巻尻尾を卷いて、何處までもと從つた。

増上寺に近づけば、各町の火消、諸大名の人数詰掛け、如何にあつても鞭うつて、馬は荒狂ふばかり、少しも先へ進まうとせぬ。

其の時勘平は轡を取り、御火消御用を勤めらるゝ、淺野内匠頭のお通りなるぞ、道を開けよと呼はりながら、群衆を押分け突退け、首尾好く山内へ乗込んで、消防各組に下知を授け、遂に延焼を防ぎ止めて、頗る面目を施したのは、是皆勘平の手柄であつた。

* * *

歸邸の後内匠頭は、先づ第一に横川勘平を呼出した。

增上寺の延焼を防止めた内匠頭は、行くまでに苦心しただけ嬉しさもまた格別であつた。

一里の道を駿足と駆競して、増上寺に達すると、數萬の群衆を押分け突退け、十重二十重の重圍を破り夜明くるまで消防夫を指揮して、力を盡し聲を嗄らし、猛火と奮闘した勘平は、屋敷へ歸り着くや否や、足輕部屋に倒れた儘、殆んど人心地もなきのであつた。

勘平が顔は一面紫色に變じて、衣服を改めて、よろめきながら御前へ出た。

片眼は始て腫塞がつて、平常の面貌は少しもない。内匠頭は驚き呆れて、汝は横川勘平か

『汝意に御座ります』

『その面體は如何したのちや、面事場で怪我でも致し居つたのか』

勘平は何にも言はず、顔を蔽て差僻いた。

内匠頭は思案の後、膝頭をはたと拍ち、

時計屋に養子にやらる併優 澤村宗十郎

明治八年の十二月に、私は新嘉坡の裏茶屋で産声を擧げたが、やがて竹次郎の兄に當る埼玉縣熊谷在の時計屋へと貴はれていた。誰も生まれ、どういふ經緯で時計屋に貴はれて來たか知る由もなし。再び東京へ呼び戻され、この頃有明樓の女将となつて六歳の頃は、可愛がつてくれた養父母を生みの親と慕ひ懷いてゐる内に、には先代助高屋高助があつたので、私はその養子として六歳

の暮に劇界へ入つたのであつた。運命ほど神祕なものはない。私は熊谷から東京へ呼び戻された時には、育ての親達を慕つて泣いて離れるのを厭がり、途立たんとして、機械やゼンマイをして、劇界に入つてから私は、父と母の激闘で、子供として、華やかな夢のやうな月を送るが、その後若し、私の思ひ通すも、養父高助の死に遭ひ、臺は久松座で、五人男、板額怡度、父と共に地方巡業に行名古屋の新盛座での稽古最中で不遇のどん底に陥落されたであつた。